

葵祭

あおいまつり

路頭の儀

平安王朝の風が今、通り抜ける。

京 都三大祭のひとつ「葵祭」。起源は約1400年前までさかのぼり、平安時代以降は国家的行事として行われてきました。王朝風俗の優雅さを感じさせる祭の見どころは「路頭の儀」とよばれる市内巡行。平安貴族の衣装を身にまとった総勢約500人が、1キロほどの列をつくり上賀茂神社に向けて練り歩きます。役人や女人など、役割によって装いもさまざま。さらに、美しい装飾品にも注目して行列を観覧すれば、華やかな貴族文化をより楽しむことができます。



2



1



4



3



6



5



7



9



8



11



10

1【乗尻(のりじり)】

行列を先導する騎馬隊。上賀茂神社競馬会の騎手がつとめ、手には鞭を持っています。

2【山城使(やましろつかい)】

行列が御所を出ると洛外になり、国司の所轄に入るので警護のため列に加わっています。緋色の装束。

3【勅使代(ちよくしだい)】

行列中最高位者。勅使は行列に参加せず、代わりに近衛使がつとめています。黒色の束帯、右腰に魚袋(ぎょたい)という装飾品を飾っているので注目。

4【風流傘(ふうりゆうがさ)】

豪華な造花をあしらった大傘。

5【陪従(へいじゅう)】

雅楽を奏する武官。紫に動植物を用いた虫絵(ばんえ)模様のある衣装。

6【命婦(みょうぶ)】

宮廷につかえる女官の通称。小桂(こうちき)単、打袴を装い、花傘をさしかけます。

7【齋王代(さいおうだい)】

未婚の京都市民から選ばれる葵祭のヒロイン。十二単に小忌衣(おみころも)を着て、心葉(こころば)とよばれる装飾品を頭に飾っています。

8【騎女(むなのりおんな)】

齋王に付き、神前で祈りや儀式をつかさどる巫女。騎馬で出向くことからこの名が付いています。

9【采女(うねめ)】

齋王に付く女官で、食事や身の回りの雑事を行います。青海波(せいがいは)模様の装束。

10【藏人所陪従(くらうとどころへいじゅう)】

物品や会計をつかさどる藏人所の雅楽を奏する文官。緋色の装束に紫袴で、それぞれ楽器を持っています。

11【牛車(ぎつしゃ)】

平安貴族の乗用車で通称「御所車」。齋王代が乗る牛車は、女房車ともよばれ、葵や桂のほか桜などが美しく飾られます。

(※掲載した役人や女人は行列の一部です。全ての行列ではございません。)